|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 和名 | ブーゲンビリア | 科名 | オシロイバナ科 |
| 学名 | *Bougainvillea spectabilis* |
| 英名 | Bougainvillea | インドネシア名 | Sawo durian bugenvil　/　kembang kertas |
| 原産地 | 中央アメリカおよび南アメリカの熱帯雨林 | 用途 | 観 |

ブーゲンビリアという名前は、1768年に、ブラジルで木を見つけたフランス人の探検家ブーガンヴィルに由来します。

一定の気温があれば開花するので、植物園の温室などでは一年を通して花を見ることができるつる性の低木。

新しく伸ばした枝の葉腋（葉と茎の接点）から花茎を伸ばしていくつかに枝分かれして、その先端に花を付けます。花は1輪ずつついているように見えますが、実際は3輪が集まって、それが1つの花のように見えています。

美しい色で花びらのように見えるのは苞と呼ばれる葉の一部で、花の本体は先端が開いた筒状の部分になります。本来の花びらは持たず筒状部も正確に言うと萼（がく）になります。

苞の色は赤、紫、白、オレンジ、ピンク、すみれ色などがあり、苞が重なった八重咲き種もあります。

インドのアーユルヴェーダでは、葉に含まれるピニトールが糖尿病に効果があるとされ民間療法に用いられているようです。